

## 研究分野紹介

高橋二郎

証券市場に上場している企業は、自身の成績表である財務諸表を社会一般に公表しなければなりません。企業会計の世界では、社会的なルールである会計基準にしたがって企業が自らの財務諸表を作成します。企業によって作成・公表された財務諸表は、投資家をはじめとした様々な利害関係者にとって重要な経済情報の一つとして位置付けられます。財務会計という研究領域が注目するのは、この財務情報に関する事象です。

財務情報は基本的に会計基準にしたがって作成されることから、わが国の伝統的な財務会計研究では会計基準を分析対象としたものが多くあります。企業の財務情報が利害関係者の要請によって作成されるものである以上、財務情報に対するニーズの変化などに応じて会計基準は進化します。会計基準のこのような性質を捕捉するために、会計基準を分析対象とした研究では、財務情報の利用者のニーズと会計基準の構造を整合的に説明・予測する概念的なモデルの構築が模索されています。そこでは、社会から企業会計に期待されている役割と会計基準の体系を支えている基礎概念(会計基準の全体像のようなもの)はどのような関係にあるのか、会計基準の体系における個別具体的な会計基準の位置づけはどのようなものかといったことが研究の主眼になります。

また、会計基準にしたがって作成された財務情報の社会での有用性や企業がとっている会計行動について、実際のデータをもとに検証することも財務会計研究では重要な課題となります。企業における様々な契約(財務制限条項や経営者報酬など)での財務情報の利用に焦点を当てたものや企業の財務情報と株価(リターン)の関係に焦点を当てたものなど数多くの研究が蓄積されています。

このように財務会計研究における会計基準に関する研究では、①企業会計に寄せられた社会(利害関係者)からの期待の特定(=会計基準にしたがって作成された財務情報が果たすべき目的の設定)、②目的を達成するための手段としての会計基準の社会的な選択、③会計基準にしたがって作成された財務情報の実社会での有用性の評価といった観点から研究が行われることになります。